

2024 年度 大型図書 研究成果（経過）報告書

このことについて、下記のとおり報告いたします。

購入資料名 カント研究叢書 10点 Kantiana Collection, 10 items	採択年度 2020年度
1. 研究の概要について 本叢書は、Emmanuel Kant(1724-1804)とほぼ同時代に活動していたカント哲学の信奉者や反対者の諸著作を含んでおり、1960年代にブリュッセルの出版社Culture et Civilisationから「Atlas Kantiana」として刊行されて以来久しく入手困難になっていた叢書のほぼ全点を復刊したものである。 カント哲学については、周知のとおりしばしば近世哲学の頂点に位置づけられているが、反面、同時代における形成過程—いわば「現代哲学」としてのカント哲学—については、基本的文献の不足から学術的な研究が手薄であった。しかしながら、近年、西洋近代哲学の枠組みを問い直す視点が哲学の内外を問わず多数提示されており、その中核を形成するカント哲学については、それがエマヌエル・カントという一人の哲学者の実存を越えて近代という時代を象徴する思想となっていく過程を掘り下げて研究する気運が高まっている。本叢書に収められた諸著作は、カント哲学に肯定的であるにせよ、批判的であるにせよ、まさに目の前に生まれつつある「出来事」としてのカント哲学に直面した同時代の思想家たちの生々しい息づかいを伝えるものであり、近世哲学の研究においてはもちろん、カント以前の中世哲学の研究、カント以降の現代哲学の研究においても、それぞれの研究の基盤となる豊かな情報源としてその都度参照され、有効に活用されている。	

2. 購入資料の活用状況（活用予定を含む）について記入してください。

近世哲学の研究としては、Bardili, *Epochen der vorzueglichsten philosophischen Begriffe*.によって、当時の論理が思想とその周辺、および今日の論理学との関係を調査した。また、Maimon, *Philosophisches Woerterbuch*.によって、「悟性」「表象」といった概念の当時の意味合いを調査した。さらに、Schmid, *Versuch einer Moralphilosophie*.によって、倫理的観点から「愛」の概念の調査をした。

中世哲学の研究としては、Fuelleborn, *Beytraege zur Geschichte der Philosophie*.によって、カントの時代に至るまでの中世哲学における概念史を調査した。

現代哲学の研究としては、Stattler, *Anti-Kant*.によって、主に批判的な観点から、現代の人類学や現象学における議論に繋がる論点を調査した。

3. 研究発表状況（予定を含む）について記入してください。

- ・【雑誌論文】（著者名、論文タイトル、雑誌名、巻号、発行年等）
- ・【図書】（著者名、タイトル、出版社、発行年等）
- ・【学会発表】（発表者名、発表タイトル、学会名、発表日等）

【雑誌論文】

松田克進「スピノザ再考—〈決定論を生きる〉ことは（いかに）可能か?」『アルケー』第32号、2024年
平野和歌子「範型と態勢—ボナヴェントゥラの創造論と万有在神論の比較検討—」『龍谷哲学論集』第38号、2024年

平野和歌子「ボナヴェントゥラにおけるフィリオクエの論理」『中世哲学研究（VERITAS）』第42号、2023年
小林徹「象徴における野生：メルロ＝ポンティとレヴィ＝ストロース」『メルロ＝ポンティ研究』第27号、2023年

山口雅広「性向あるいは徳としてのカリタスにかんする若干の考察（上）：トマス・アキナス『命題集注解』の場合」『龍谷哲学論集』第36号、2022年

平野和歌子「起源からの流出／誕生、ペルソナと固有性：ボナヴェントゥラの『生むゆえに、御父である』に関して」『龍谷哲学論集』第36号、2022年

【図書】

松田克進『スピノザ学基礎論—スピノザの形而上学 改訂版—』勁草書房、2023年

【学会発表】

山口雅広「性向あるいは徳としてのカリタス：トマス・アキナス『命題集注解』による」「西洋中世スコラ学における『倫理学を内在化する政治学』への批判的研究」第1回倫理学的政治学ワークショップ、2022年3月18日

山口雅広「トマス・アキナスの神学的体系における政治学と倫理学の関係」「西洋中世スコラ学における『倫理学を内在化する政治学』への批判的研究」第1回倫理学的政治学科研科研究会、2021年9月20日

平野和歌子「ボナヴェントゥラにおけるペルソナの固有性」日本宗教学会第80回学術大会、2021年

☆公表の際には、参考文献として刊行物に明記してください。

☆資料購入後、**1年以内に研究経過報告書**を提出し、また、**3年以内に研究成果報告書**を提出してください。
加えて著書または学術雑誌等により**研究成果の公表または学会発表**をしてください。

2020年度採択締切：【研究経過報告書】2022年3月31日、【研究成果報告書】2024年3月31日

2021年度採択締切：【研究経過報告書】2023年3月31日、【研究成果報告書】2025年3月31日

2022年度採択締切：【研究経過報告書】2024年3月31日、【研究成果報告書】2026年3月31日

2023年度採択締切：【研究経過報告書】2025年3月31日、【研究成果報告書】2027年3月31日

2024年度採択締切：【研究経過報告書】2026年3月31日、【研究成果報告書】2028年3月31日